

真菌医学研究センター Monthlyセミナー

平成29年11月14日(火) 17:00~18:30
千葉大学真菌医学研究センター 大会議室

ウイルス性出血熱～エボラからSFTSまで～

国立研究開発法人国立国際医療研究センター
国際感染症センター国際感染対策室

加藤 康幸 医長

ウイルス性出血熱(viral hemorrhagic fever: VHF)は特定のRNAウイルス群による急性感染症です。重症例では臓器不全を合併し、高い致死率を示します。病原体は動物由来であり、常在地の分布や流行の消長には生態学的な因子が強く関わっています。

VHFには患者の血液・体液を介して流行するものがあり、エボラ出血熱がその代表です。国際的な監視下に置かれていますが、2013-2016年に西アフリカでは想定外の大流行が発生しました。現地では対策に関わった立場から当時を振り返ってみたいと思います。

このほかに注目されるVHFとして、マダニが媒介するクリミア・コンゴ出血熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)があります。後者はわが国を含めた東アジアに登場した新しいVHFと考えられます。抗ウイルス薬の臨床試験など、現在進行中の新しい治療の取り組みなどについてご紹介したいと思います。

主催：千葉大学 真菌医学研究センター

【連絡先】千葉大学 真菌医学研究センター(真菌センター支援係)

Tel: 043-226-2495 E-mail: vab5903@office.chiba-u.jp